

『言語政策』 1 2005年3月31日 発行

<目次>

「言語政策」創刊にあたって

水谷修

<論説>

言語政策研究の言語観を問う—言語計画／言語態度の  
二分法から言語管理の理論へ—

木村護郎クリストフ 1

ハワイ語再活性化運動の成果と今後の課題

—言語政策の観点から—

松原好次 15

多文化共生社会に対応した外国人受入れ政策や言語  
教育施策の在り方に関する—考察 —諸外国の受入れ  
施策や言語教育施策を事例として—

野山広 37

言語に寛容な社会への試み

—フィンランド言語法の改正について—

黒田亨 63

言語変化の変数としての言語教育政策—ポスト・  
クレオール連続体から二言語変種併存へ—

大原始子 81

言語計画としての多言語施策

—日本警察の通訳体制事例から—

猿橋順子 99

<事例>

第二次世界大戦下ドイツでのギムナジウムにおける  
日本語講座開設に関する記述—文化事業としての日本  
語講座開設の経緯と意義について—

小川誉子美 129

<書評>

藤井（宮西）久美子『近現代中国における言語政策  
—文字改革を中心に—』

菅野敦志 143

<論考>

日本の対外言語政策の目的と課題

鈴木孝夫 147